

田中康夫「TPPはブルック経済」

TPP参加反対の急先鋒は新党日本の中田康夫氏。13日、こう論じた。

「TPPは自由貿易でなく、時代錯誤の保護貿易であり、ブルック経済だ」

その論拠は。

「日本も加わって10カ国になる」と、GDPの7割が米国、21%が日本、豪州4・3%で残り4・2%が他の7カ国。米国主体の、米国だけが1人勝ちする米連邦をつくろうとしている」

米日、豪を除くと小国ばかりだ。最初に4カ国が集まつた。シンガポール、ブルネイ、ニュージーランド、チリ。シンガポールは1次、2次、3次産品を全部輸入しているの増やしたい③巨額の貿易黒字がある



4310

「途中では抜けられない」

国、韓国、台湾も。4大新興国（ロシア、インド、ブラジル、中国）、それにEUもちろん入らない

オバマ米大統領の戦略は。説にすべて出ている。①米国は今後5年で輸出を倍増させる国家輸出戦

でTPPをやつても痛くもかゆくもない。他の3カ国は1次産品の輸出べきではない。オバマは輸出振興国。他国がたくさん買ってくれればハッピーだ。米国の隣国のカナダ、メキシコが不参加。日本の隣の中

國（日本など）は輸出への不健全な依存をやめ内需拡大策をとるべきだ。いかなる国も米国に輸出さえすれば、経済的に繁栄できると考える。FTA（自由貿易協定）を米国と結んだ。外務省や経産省になぜ米国とFTAをやらないのか、と聞くところだ。外交は韓国の方が一枚上手だ

。「米国がイエスと言つてくれない」と。外交は韓国の方が多い。FTAをやつて途中で降りる手は。「玄葉外相も『条件が合わないから抜けるとは簡単には言えない』と言ふ。医療、電波、通信、保険、金融、公共入札。ドーハラウンドがうまくいかなかつたのに、急に飛び乗るのか」バスに乗り遅れるな、との声があ

（政治評論家）